

第三者研究会での意見の概要及び意見に対する対応状況

1. 第三者研究会の名称

名称：「次世代マルチモーダル ITS 研究会」(第1回：平成15年1月15日)

赤羽弘和 千葉工業大学教授

森川高行 名古屋大学大学院教授

羽藤英二 愛媛大学助教授

植原啓介 慶応義塾大学大学院特別研究専任講師

「次世代交通フォーラム」(第9回：平成15年6月10日)(長、構成員については別紙を添付)

2. 第三者研究会での意見の概要及び対応

意見の概要

モニタ属性によってアクセス行動に違いがあり、羽田空港を頻繁に利用しない一般利用者は事故等がなくても余裕をもって出発する傾向があるが、羽田空港を頻繁に利用する人はもっと直前に到着する傾向がある。

羽田空港アクセスでは、位置は細かく把握するよりも、どの方面から来るか程度が分かれば十分ではないか？混雑度など提供できればよいと思う。

意見に対する対応状況

モニタとして、空港に行き慣れていると必ずしもいえない一般旅客(ツアー客)モニタと、空港に行き慣れているCA(キャビンアテンダント)、空港勤務者モニタを選定した。

実証実験では、PHSにより把握したモニタの位置に対応した交通情報配信を行い、アンケート結果等により有用性を検討した。また、羽田空港アクセスにおけるメールによる交通情報配信全般に対するモニタの考え方をアンケートにより把握した。